

5 日目（8 月 6 日）

薬師峠～薬師岳～五色が原

薬師峠 2:40 — 4:10 薬師岳山荘 — 5:00 薬師岳山頂
5:30 — 6:25 北薬師岳 — 7:30 間山 7:50 — 8:
25 スゴ乗越小屋 9:15 — 9:50 スゴ乗越 — 10:50 ス
ゴノ頭 11:00 — 12:30 越中沢岳 12:50 — 14:25 鳶
山 14:35 — 15:10 五色が原山荘 — 15:30（幕営）



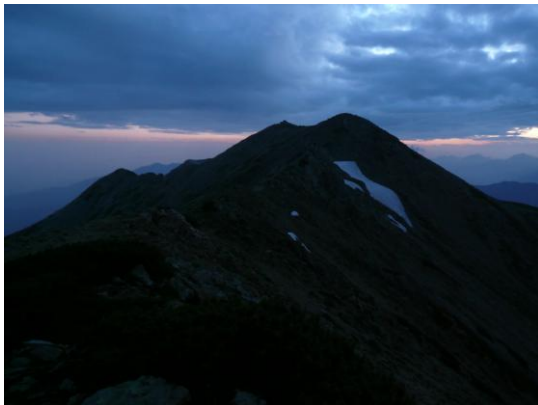
槍穂高。生憎の曇り空だが、結構遠くまで見える。



2 時 40 分に真っ暗な中、薬師峠を出発したが、曇っていたこともあって、薬師岳山頂に近づくころ、ようやく明るくなってきた。

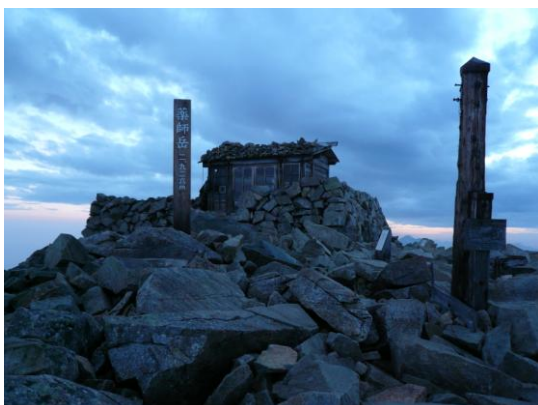


北を向くと、立山（中央）と剣岳（立山のすぐ左）が



景色を楽しんでいると、だんだん人が登って来た

薬師岳山頂までもう少し



山頂から南に続く稜線

薬師岳山頂（2926m）。薬師如来像が納められている。



北薬師岳（2900m）と金作谷カール（特別天然記念物）



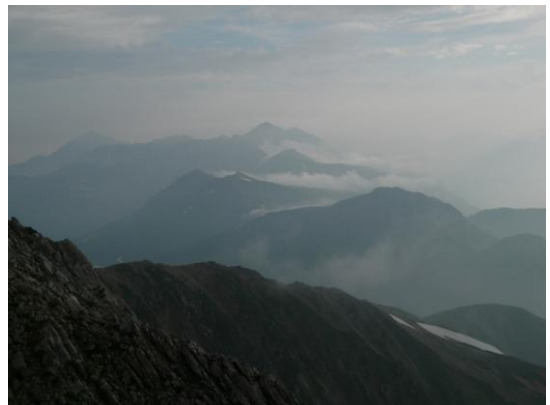
遠くに浮かぶ槍ヶ岳



薬師岳から北薬師岳までは痩せ尾根だが、見た目よりもずっと歩きやすい



薬師岳を振り返る



立山（中央）と剣岳（左）



北薬師岳山頂



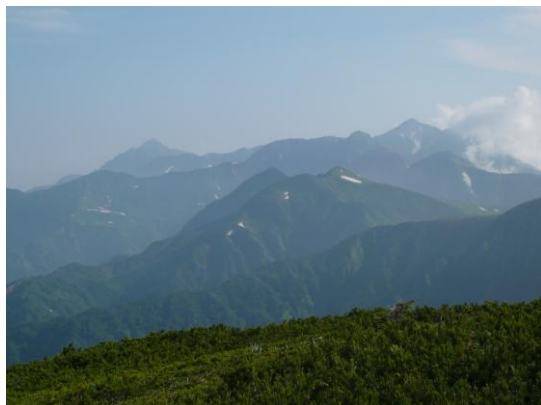
北の空が晴れだした



間山山頂。眺めが良い。



北薬師岳を振り返る



立山と劔岳（間山山頂から）



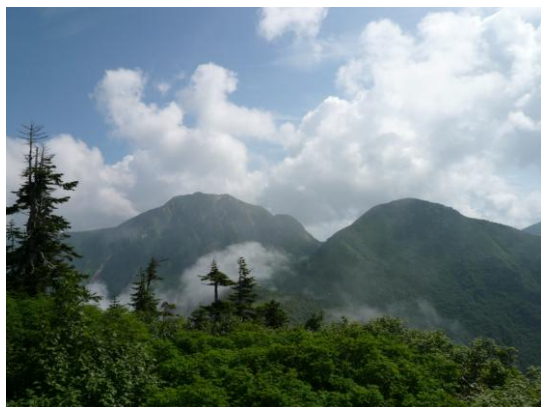
北薬師岳からは気持ちの良いなだらかな尾根道



スゴ乗越小屋。前夜は宿泊客で混雑していたようだ。
このコースは、意外に人通りが多い。



間山（2585m）。遠くは立山と劔岳。



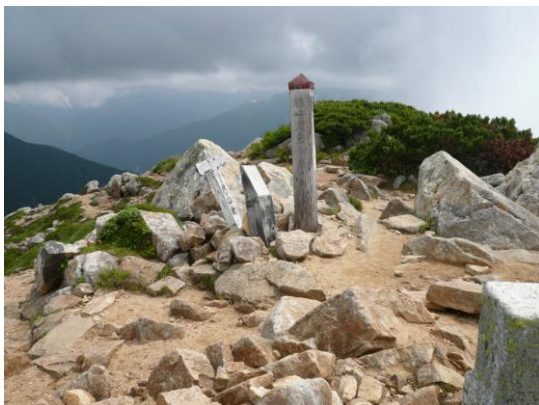
スゴノ頭（右、2431m）と越中沢岳（2591m）。
これからきついアップダウンが待っている。



越中沢岳。気持ちの良い尾根道が続く。



お花畑が広がる



越中沢岳山頂



五色ヶ原の中は木道となっている



来た道を振り返る。雲が多くなってきた。



広々とした五色ヶ原



鳶山山頂（2616m）。名前の通り（？）冴えない山。
ここから目的地の五色ヶ原までは下るだけとなった。



五色ヶ原山荘



テン場は山荘から 10 分ほど下る



夕暮れの五色ヶ原



明日登る獅子岳 (2741m)



テン場は広いが、この通り人は少なかった



後立山の方では、雷が鳴っていた

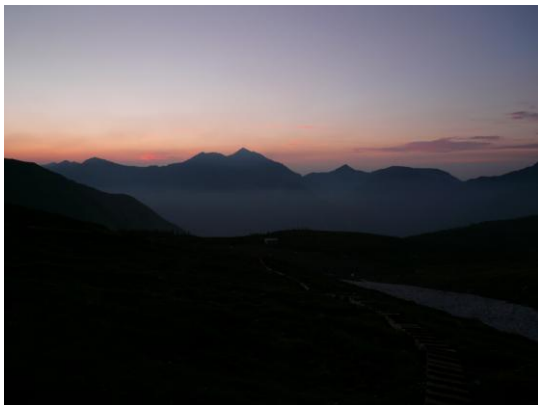
6日目（8月7日）

五色ヶ原～立山～劔沢

五色が原キャンプ場 4:40 — 5:40 ザラ峠 — 6:30 獅子岳 6:40 — 8:00 龍王岳 8:30 — 8:40 一ノ越山荘 9:00 — 9:30 雄山 10:20 — 10:40 大汝山 — 11:00 富士ノ折立 — 11:30 真砂岳 — 11:20 別山 — 北峰 12:40 — 13:15 劔沢キャンプ場（幕営）



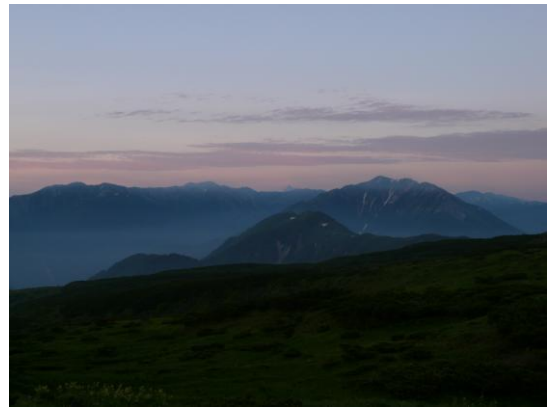
五色ヶ原テン場から、早朝の眺め（遠くは裏銀座）



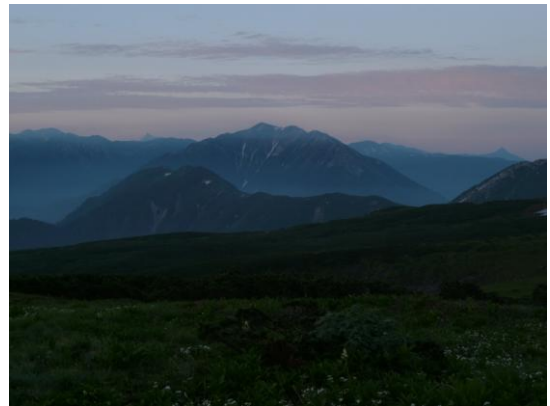
後立山南部。中央は針ノ木岳（2821m）



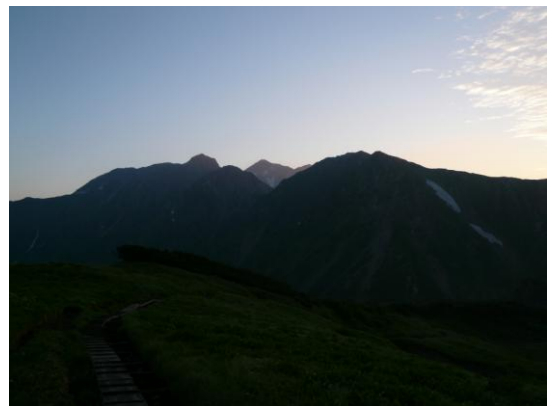
五色ヶ原山荘の前で景色を眺める人々



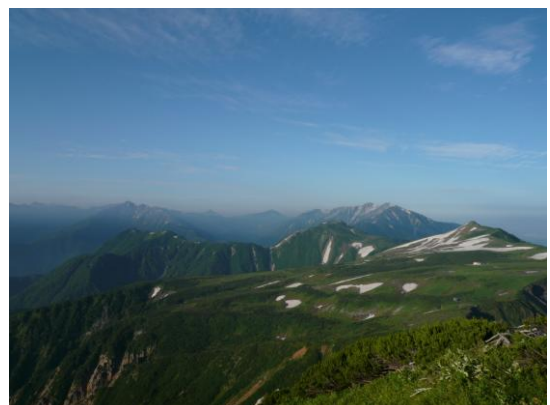
右の大きな山は薬師岳



中央は薬師岳。その左に槍ヶ岳、右端に笠ヶ岳が頭を出している。



右は獅子岳（2741m）、左は鬼岳（2750m）と龍王岳（2872m）、その間から立山(3015m)が顔をのぞかせる



五色ヶ原を振り返る



歴史に名高いザラ峠。戦国武将、佐々成政が、真冬にこの峠を越えて徳川家康に会いに行ったらしい。



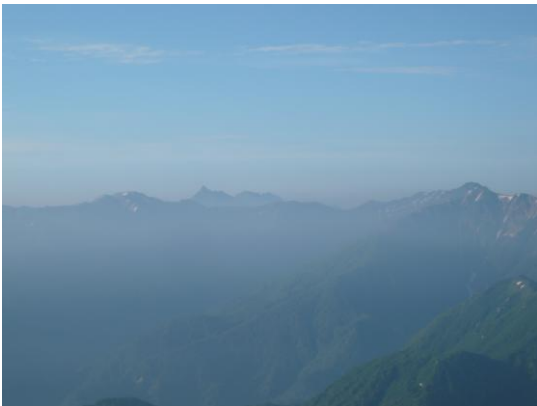
南の方角を望む。左下は黒部湖。



獅子岳



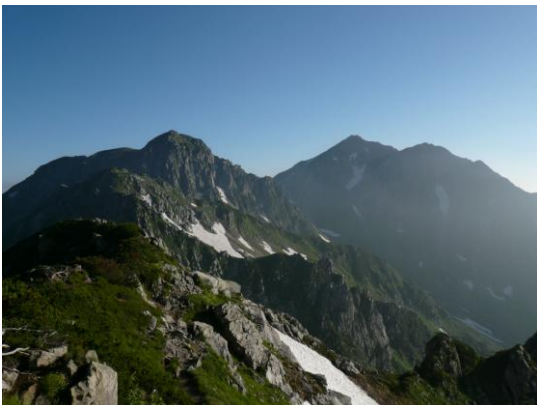
後立山南部



振り返ると、遠くに槍穂高連峰が浮んでいる



龍王岳。このピークは登らない。



中央右が立山、左は龍王岳



龍王岳ピークの横の展望台。眺めがいい。



劔岳



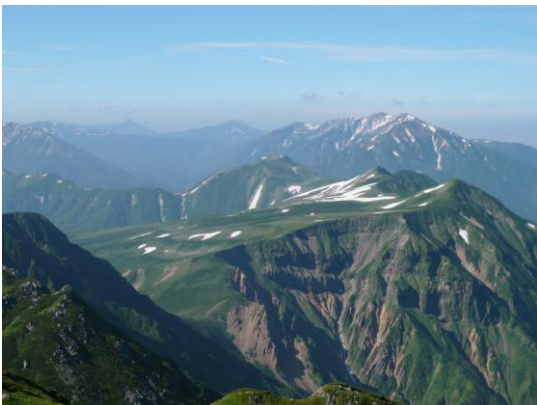
立山。コルにある小屋は一ノ越山荘。



槍穂高連峰。ひときわ高い。



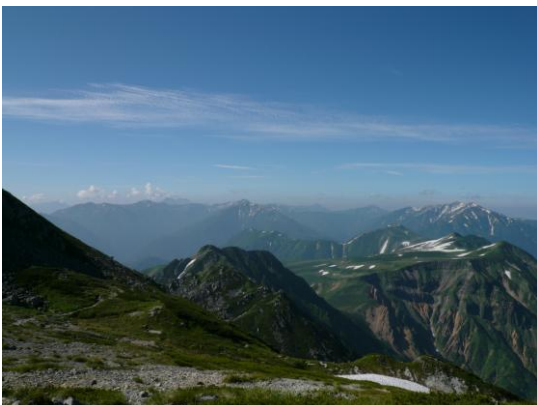
室堂。奥は、大日岳（中央、2501m）と奥大日岳（右、2606m）



五色ヶ原と薬師岳（右）



一ノ沢山荘から立山山頂までは急登。後ろを振り返ると、龍王岳が目立っている。



立山山頂まであと少し



雄山神社の社務所



雄山（3003m）の山頂には、立派な雄山神社がある



雄山神社では神主さんがお祓いをしてくれる



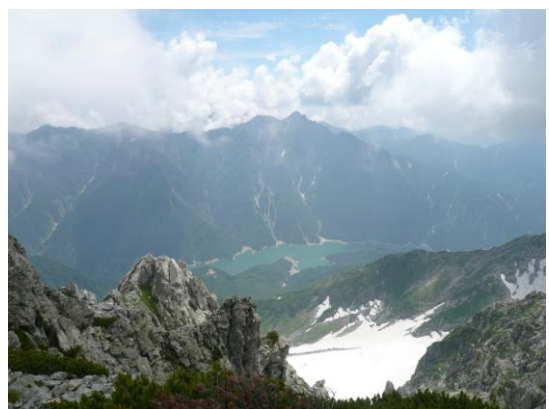
神社の脇から眺める劔岳（2999m）



劔岳に向かって、立山三山を北へ縦走する。劔岳の左、遠くの山は毛勝山（2414m）。



立山の最高地点、大汝山山頂（3015m）



眼下の湖は黒部湖。対岸から聳えるのが針ノ木岳。



なだらかな真砂岳（2861m）の稜線



中央は別山（2874m）。ここも信仰の山。



劔沢のカールを下る



別山山頂の祠



劔沢のテン場に着いた。正面に劔岳がデカイ。早く着いたので、午後は劔岳を眺めて過ごした。



残念ながら劔岳山頂は雲の中



金沢大学の診療所。Dr. 1人と学生1人がいた。



立山を振り返る



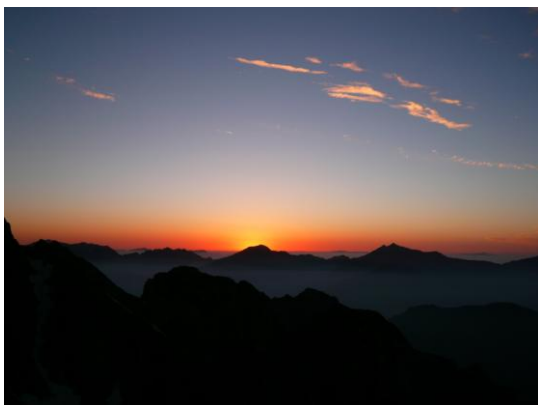
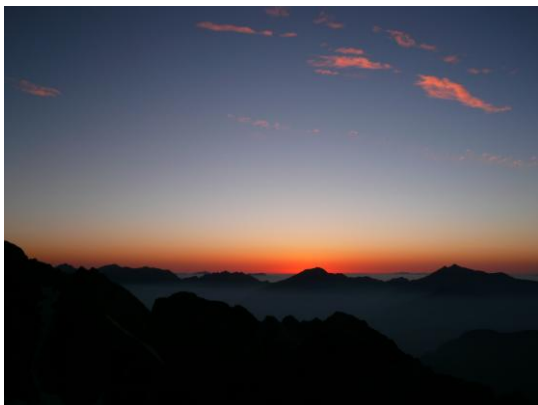
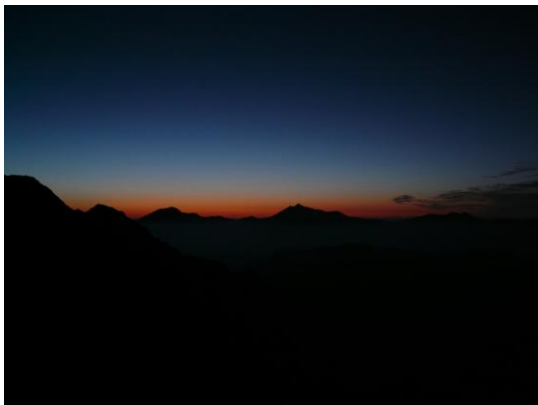
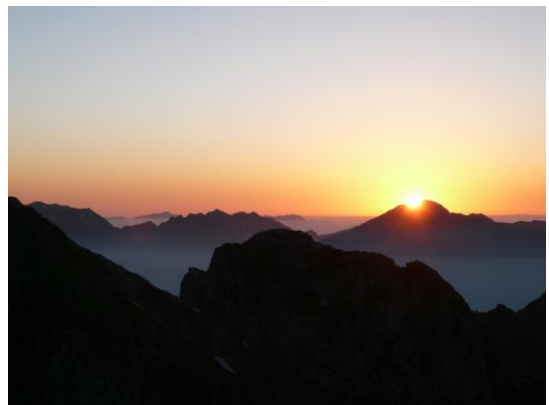
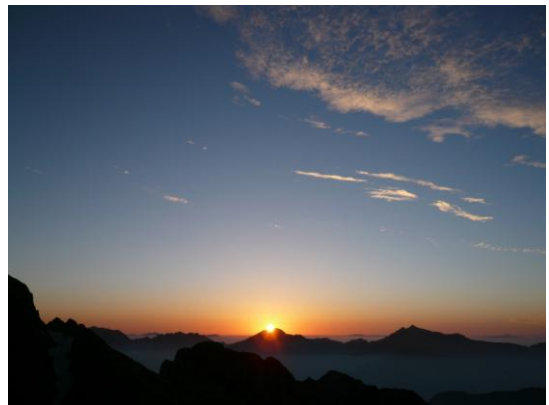
夕暮れ時の劔岳。劔沢から見る劔岳は本当に圧巻。

7日目(8月8日)

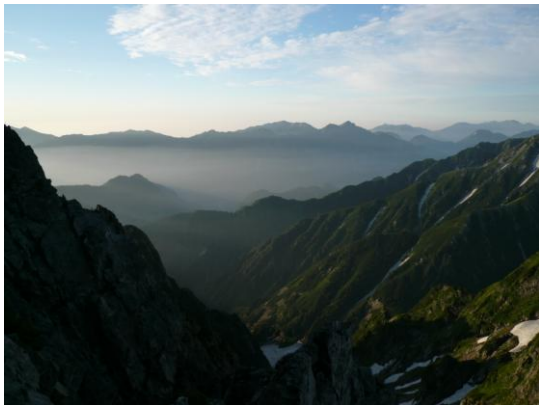
劔沢～劔岳～劔沢～雷鳥沢

劔沢 3:40 — 4:40 一服劔 — 5:40 劔岳山頂 6:40 —
7:50 一服劔 8:00 — 8:20 くろゆりのコル 8:30 —
9:20 劔御前 9:30 — 9:50 劔御前小屋 10:00 —
10:30 劔沢テン場 11:30 — 12:10 劔御前小屋 —
12:45 新室堂乗越 — 13:05 雷鳥沢キャンプ場(幕営)

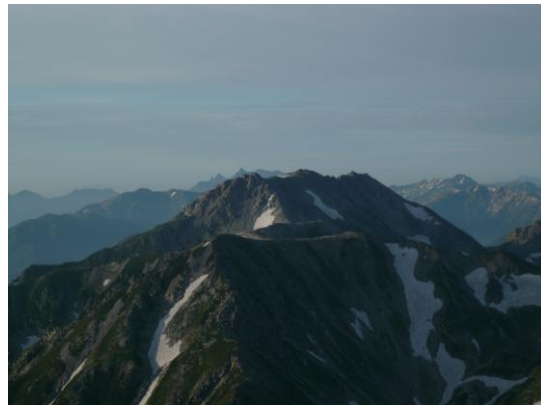
一般コースでもかなり険しい劔岳は、時間が遅くなると鎖場で渋滞するので、暗いうちに出発。前劔のあたりで日の出を迎えた。五竜岳から陽が昇る様子をご覧ください。(五竜岳の左のぎざぎざの山は唐松岳、五竜岳の右は鹿島槍ヶ岳。)



難所で有名なカニのタテバイ。この通り、人がいなかったのであっさり通過。



裏銀座の方角。中央は蓮華岳（左）、針ノ木岳（右）、そして遠くに燕岳や大天井岳（右端）



立山の向こうに槍ヶ岳。立山の右は薬師岳。



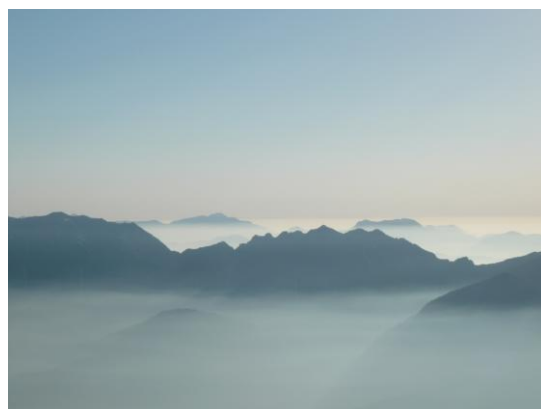
山頂の祠は数日前に新しく入れ替えたらしい



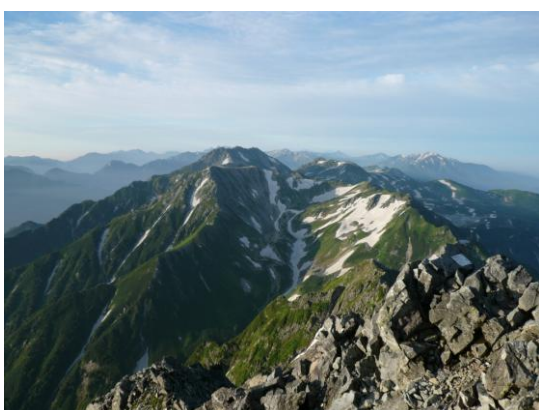
左が白馬岳(2932m)、中央が唐松岳(2696m)、その右が五竜岳(2814m)、右端が鹿島槍ヶ岳(2889m)



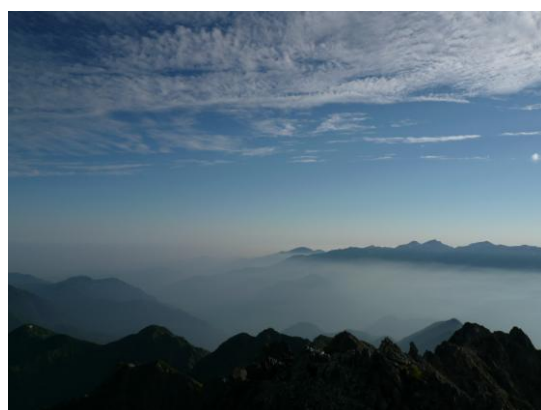
2999m と、3000m にわずか 1m 足りない剣岳山頂



恐竜の背中のような唐松岳。その左遠方は高妻山 (2318m)、右遠方は戸隠連山。



剣沢のカール。その向こうに歩いてきた山々。



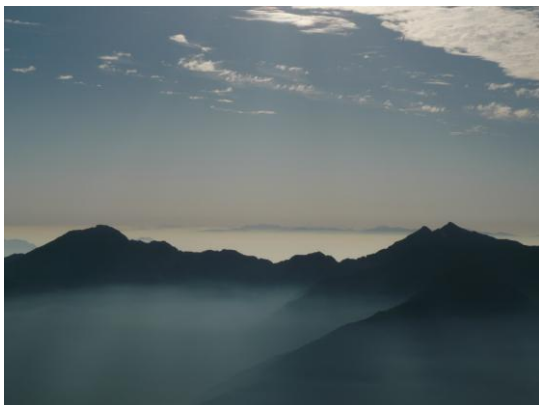
白馬岳から日本海の親不知へと続く北アルプス北部。



劔岳の北方の毛勝山（2414m）



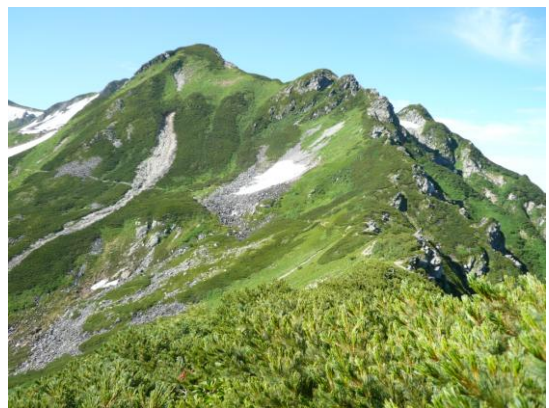
くろゆりのコル付近で出会った雷鳥の親子



鹿島槍ヶ岳（右端）の左遠方に浅間山



カニのヨコバイの直下



劔岳から劔御前(2777m)へと続く稜線を歩いた



劔御前へのルートは一部変わっており、完全にハイマツでふさがったところを藪こぎをすることも



剣山荘のお二人。右の方は去年の夏、燕岳から黒部五郎岳まで半日で歩いたというものすごい健脚。普通のゴム長靴なのだが、とにかく歩くのが速くて、私は空身だったがついていくのが大変だった。お二人は、劔御前山頂の手前で雪渓を長靴でスケートでもするように滑って降りて行ってしまった。



劔御前から北はなだらかで歩きやすい道になった。劔御前に登る人は、劔御前小舎から往復する。



劔岳を振り返る。右下の小屋が剣山荘。



劔御前小舎



劔御前山頂から



南の方角を眺める。中央左は立山。



テントを張っている劔沢に下る



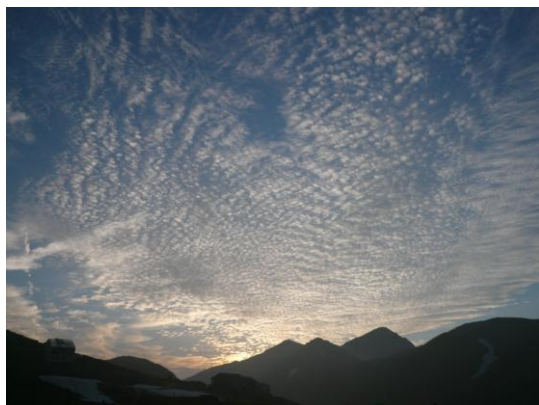
テントをたたみ、再び剣御前小舎まで登る。大日岳への尾根伝いに歩き、新室堂乗越から雷鳥平に下った。



テン場に到着。立山の眺めが素晴らしい。ここも雰囲気の良いところだった。



この日の目的地、雷鳥沢キャンプ場を目指す



大日岳の稜線と、まるで秋のようなうろこ雲。中央右の少し高い山が奥大日岳(2606m)。



立山



雷鳥沢のキャンプ場にはすでに多くのテントが

8日目(8月9日)

雷鳥沢～大日岳～称名滝

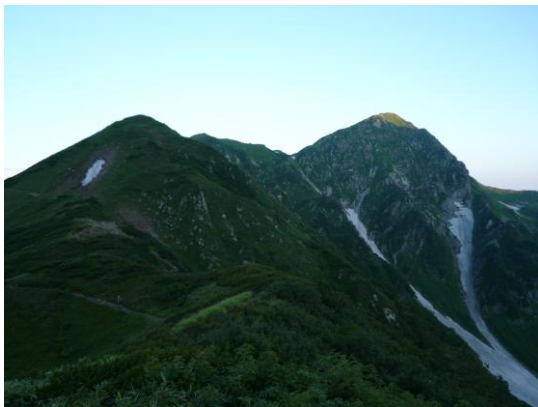
雷鳥沢 5:00 — 5:15 新室堂乗越 — 6:20 奥大日岳
6:50 — 7:50 大日小屋 — 8:00 大日岳山頂 8:10 —
8:20 大日小屋 — 9:35 大日平小屋 9:45 — 10:20 牛
首 — 11:10 大日岳登山口 — 称名滝 — 11:35 称名
滝バス停 — 称名滝 — (バス) — 立山駅 —
富山駅 — 新潟駅 — (夜行快速) — 新宿駅



夜明け前の立山（雷鳥沢のテン場から）



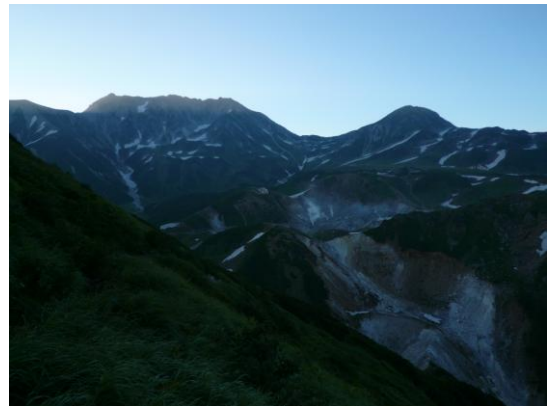
新室堂乗越まで前日下った道を引き返す



頂上に陽が当たり始めた奥大日岳(右)



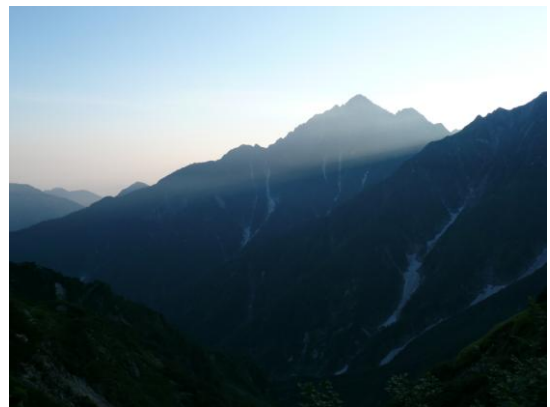
右手に劔岳



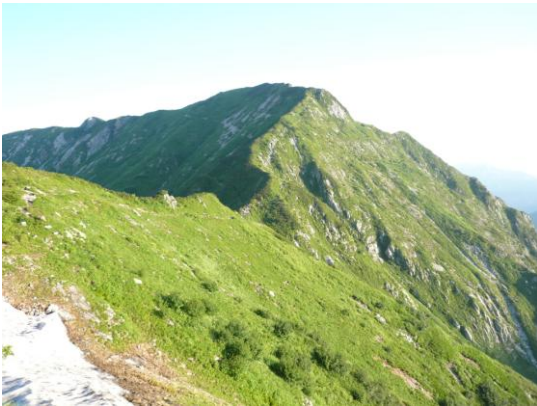
立山



なだらかな大日の稜線の道

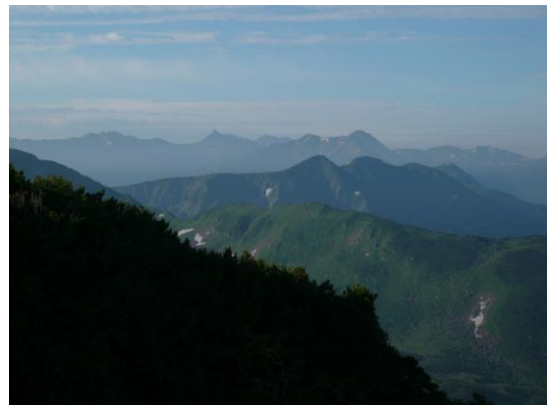


劔岳の早川尾根（左の稜線）が魅力的



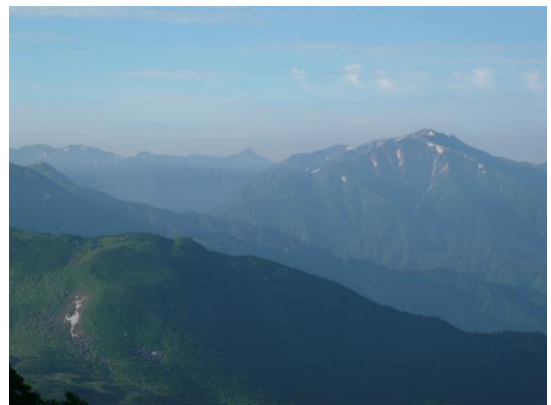
奥大日岳(2611m、三角点は 2606m)

この稜線からの眺めも素晴らしい。中央には槍ヶ岳が見える。右に薬師岳が大きい。



奥大日岳山頂の稜線

中央やや左の遠方に槍穂高連峰



奥大日岳の山頂(三角点)

大きな薬師岳 (右)。中央遠方は笠ヶ岳。



立山を振り返る



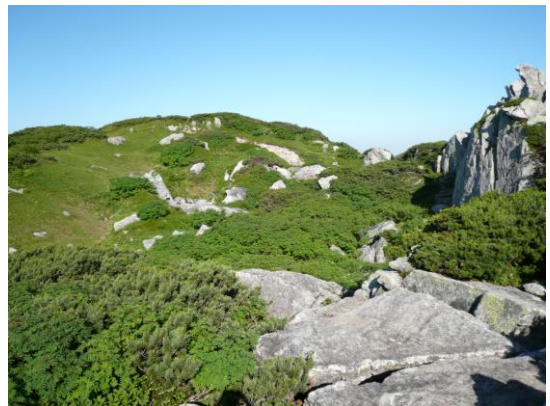
能登半島がかすかに見える



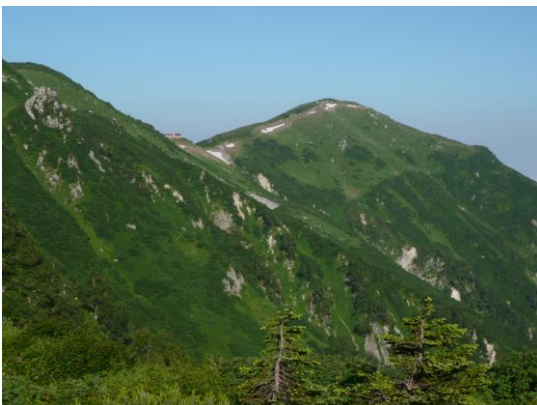
気持ちの良い稜線の道が続く。



大日岳(右)を目指す



七福園と呼ばれる庭園のようなところ



大日岳(2501m)。コルの小屋は大日小屋。





大日小屋。ここに荷物を置いて、空身で大日岳山頂を往復。山頂まで10分。



富山湾の方角。残念ながら、海は見えない。



大日岳山頂。向こうの山は薬師岳。



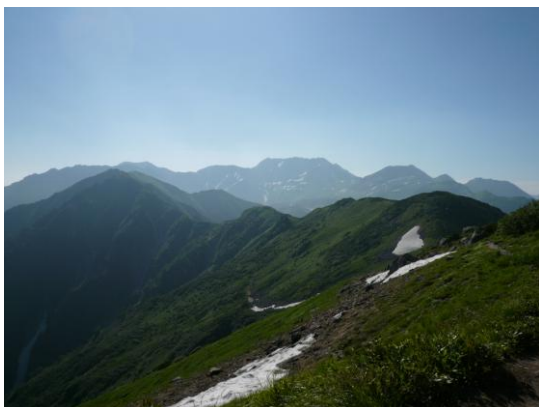
荷物の置いてある大日小屋へ引き返す。大日平へは、小屋の脇から下る。



剣岳を振り返る。右は奥大日岳。



湿原の大日平を見下ろしながら下る



歩いてきた大日の稜線。中央は立山。



広大な大日平。遠くに薬師岳。こうして見ると、薬師岳は大きくて本当に立派である。



大日岳を振り返る



急坂を下り、観光客が行き交う称名滝近くの登山口にたどり着いた



大日平山荘。結構人が多かった。



有名な称名滝



薬師岳



称名滝バス停からバスに乗り、富山地方鉄道の立山駅に出た。こうして、8日間にわたる縦走は終わった。



木道が延々と続く